

Intervention to construct a system for defecation care in long-term care health facilities for the elderly

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Sakakibara, Chiaki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31458

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2247号
 学籍番号 0627022010
 氏 名 榊原 千秋

論文審査員

主 査 (教授) 城戸 照彦
 副 査 (教授) 塚崎 恵子
 副 査 (教授) 須釜 淳子



論文題名 Intervention to construct a system for defecation care in long-term care
 health facilities for the elderly

(介護老人保健施設における排便ケアシステムの構築を目指した介入)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

介護老人保健施設における排便ケアシステムの構築を目指した介入を行い、その効果を評価することを目的とした。2つの介護老人保健施設の排便ケアリーダーと全入所者と全スタッフを対象とした。リーダーは、各施設の管理者が看護師2人と介護職2人の4人を選出して計8人とした。方法は、Soft Systems Methodology (SSM)を参考にして2つの介入プログラムを作成した。プログラムAは、The Bristol Stool Scale (BSS)を導入した排便アセスメントスキルの向上、組織内教育方法の学習、排便ケアシステムの構築を目指した排便ケア改善計画を立案して実行するための排便ケアリーダー養成研修会を開催した。プログラムBは、排便ケアリーダー養成研修会後の組織内教育にも研究者が引き続き介入した。プログラムAはA施設(入所者58人、スタッフ34人)、プログラムBはB施設(入所者29人、スタッフ17人)に実施した。その結果、便の性状は2つのプログラムとも1年後に有意に変化して、軟便または硬便から普通便に改善した者はプログラムAが25.9%、プログラムBが48.3%だった。入所者の満足度、刺激性下剤の使用の有無、緩下剤の1か月総使用量も2つのプログラムとも有意に向上した。スタッフの排便アセスメント実施度は、プログラムBのみ有意に向上した。排便ケア改善計画の目標の達成状況は、プログラムBのみ9つのすべての目標を達成していた。以上の結果より、SSMを活用して、排便ケアリーダー養成研修会の実施後、さらに組織内教育を支援したことによって施設内に排便ケアシステムが構築できる可能性を示した。また、BSSを施設に普及するための導入方法を示すことができたと考えられる。

【審査結果の要旨】

排便ケアシステムの構築を目指した支援方法として2つのプログラムを作成し1年間にわたる介入の効果を明らかにしたオリジナルな研究である。公開審査では、B施設にプログラムBを実施した理由、2施設の規模の違いによる評価方法、組織内教育の推進の可能性と方法、研究成果の海外への貢献等の今後の研究の発展について質疑され、適切な応答がなされた。

以上より、本研究は博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。